



カササギ

～北海道にやってきた 七夕伝説の鳥～

カササギは、カラスより一回り小さく、白黒のコントラストが美しい鳥です。日本では、およそ 400 年ものあいだ九州北部にしか分布していませんでしたが、なぜか 90 年代から苫小牧市を中心に北海道胆振地方に定着しました。そして最近、札幌市内でも営巣が確認されるようになりました。一体なぜ北海道にカササギが定着できたのか、今後も分布をどんどん拡大していくのか、興味がつきません。

カササギは民家の屋根、電線、街路樹など、人目につく場所に姿を見せたり、住宅地内の公園や道路上をゆっくり歩きまわったりするため、とても観察しやすい鳥です。私たちは、カササギの「目立つ」という特徴を活かし、一般の方々から目撃情報も募ることにしました。これまで 800 件以上の情報が寄せられ、函館や旭川にも飛来していることが分かりました。

カササギを対象とした市民参加型の調査は、生態研究の有効な調査方法でもあり、また身近な自然観察を促進するための効果的な普及啓発ツールでもあります。本発表では、カササギ観察の楽しみと、今後の研究の展望をご紹介します。



開催日 2019年4月6日(土) 15:00～16:45

場所 : 札幌市エルプラザ 2F 環境研修室(中央区北 8 西 3 TEL011-728-1222)

講演者

長谷川 理氏(NPO 法人 EnVision 環境保全事務所)

主催: 北海道自然観察協議会

問い合わせ等は村元まで TEL・Fax(011-694-5907)